

研究開発課題中間評価結果

事業名（年度）	ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業 （令和4年度～令和8年度）
研究開発課題名	ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 東京フラッグシップキャンパス（東京大学新世代感染症センター）
代表機関名（所属 役職）	国立大学法人 東京大学（国際高等研究所新世代感染症センター・特任教授）
研究開発代表者名	河岡 義裕

【総合評価】 優れている

【評価コメント】

拠点長を中心に、4名の副拠点長、専門分野において国際的に第一線で活躍している10名の研究開発分担者から成る研究体制・運営体制を比較的短期間に構築し、当初の計画に沿って研究開発・拠点運営を着実に実施している。

シナジー拠点・サポート機関との連携、多くの企業との連携、国際連携の充実を図っており、トップレベル拠点群全体を統括・調整する役割が一定程度果たされている。

一方で、連携による具体的な研究等に発展して成果につなげるのはこれからであり、公募要項で求めている拠点間が協働した一体的な研究開発の推進を行うには、さらに踏み込んだ検討・調整等が必要である。

加えて、産学官連携コンソーシアムによる、シーズとニーズのマッチングや非競争領域における研究開発の推進などの具体的な活動が進展するよう主導的な役割を果たしてほしい。

本事業は感染症有事を見据えた迅速なワクチン開発に資することが目的であり、各拠点で研究開発を進めているワクチンシーズについては、最終的な実装化を意識したタイムラインを設定し、迅速に開発が進むように拠点内で優先順位を明確にして戦略的かつ効率的な研究開発マネジメントを行うことが求められる。

基礎研究に留まらず、ワクチン開発を成功させ、上市されることを視野に入れて本事業を推進してほしい。また、「新規のワクチンを国内で短期間に実装するという最終目標に基礎研究の側面からどのように関わるか」というゴールを見失わないように拠点運営を進めてほしい。

東京大学柏IIキャンパスで整備途中にある、臨床評価に用いるワクチンを製造するためのGMP省令適合施設は、施設の存在意義の観点と事業性の観点から将来を見据えた十分な計画を策定することが求められる。

以上